

I 研究テーマ「楽しく力のつく授業づくり」

II 研究テーマと設定の理由

「楽しく力のつく授業づくり」をテーマに研究を進め、今年12年目となる。今日、「国語の力は、コミュニケーション能力や情報活用能力、論理的思考力など、様々なものが求められている。その中で、本会の研究テーマは、なにより学ぶ楽しさ、つまり国語の学習や学習内容への関心意欲が大切であるという考えに基づいている。「関心・意欲・態度」という情意面も国語の大切な学力と捉えようとするものである。

このテーマのもと、研究を深めるために、第1の課題として「楽しさ」の中身が検討されなくてはならない。そして、その上で「手立て」をいかにするかが検討されるべきである。第2の課題として、私たちが生徒につけようとする「国語の力」はどのようなもので、それらをどのような「手立て」でつけさせるのかを検討すべきであると考えた。これらを踏まえ、本年度は新学習指導要領の指導目標を実現する指導案作りを意識して、研究を行うこととした。

III 研究の経過と内容

・今年度の活動計画

研究日	研究内容
4月10日	全体研究会 学年部会研究 年間計画 組織の確認
5月15日	学年部会研究 教材授業者決定
6月17日	学年部会研究 指導案検討
8月7日	学年部会研究 指導案検討
8月20日	学年部会研究 指導案検討
9月4日	全体研究 指導案最終検討
10月2日	研究授業および研究会（中込幸雄先生 甲府市立北西中学校1年） 「作品を読んで感想を立体リーフレットにまとめよう」 ～多角的・協同的な読みを通して読書のおもしろさを味わう～
11月4日	県教研環流報告と今年度のまとめ 来年度の方向性について
1月27日	講演会（小中合同） 講師：岩永正史先生（山梨大学人間教育学部教授）

・県教研に提出した研究の経過と内容

作品を読んで感想を立体リーフレットにまとめよう

～多角的・協同的な読みを通して読書のおもしろさを味わう～

○第1学年C領域「読むこと」ウ、エ、オ

(1)ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。

エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。

○オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ)

事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

○言語活動例

C(2)ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。(読書)

1 はじめに

科学技術の進歩著しい21世紀において、知を広く共有し、互いに高めていくというコミュニケーション力が求められる。その中で「優れた読書人」を育てることが学校教育に求められる。「優れた読書人」とは何か？いろいろな考え方があると思うが、ここでは「自己変容ができる人」と考えた。学校教育を通して「優れた読書人」を育てるとすれば、21世紀型の読書には自分だけが本と向かい合って自己変容するのではなく、他者と協同的に物事を解決し、高め合うという能力が求められる。本授業は、その一つのアプローチである。

2 単元の目標等

○協同的な読みを通して、多角的に作品を捉える力を身につける。

○協同的な読みを通して、読書の楽しさやおもしろさを味わい、ものの見方や考え方を広げる。

【本指導計画において意識させたい「5つの言語意識」】

- ・目的意識 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つとともに、考えを広げたり深めたりするために
- ・相手意識 自分の考えと他者の考えを比較して考えを深めようとしている仲間に
- ・場面状況意識 役割ごとに本を読み、自分の考えを深める場面で
- ・方法意識 意見を交流する形式で発表し合うことで
- ・評価意識 作品を読み解く方法を知り、読書のおもしろさを味わうことができたか

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
①目的に応じて、本の内容を的確にとらえる力を身に付けると共に、読書を通してものの見方や考え方を広げようとしている。	①場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てている。(ウ) ②文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもっている。(エ) ③文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くする。(オ)	①事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつ。[(1)イ(ウ)]

4 指導と評価の計画

言語活動事例		ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。				
指導事項		作品を	重点	学習活動	評価規準	時
ウ	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること 【文章の解釈】	読	○	1. 教師の範読を聞き初読の感想を持つとともに、学習の見通しを持つ。	(関①)	1
エ	文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと【自分の考えの形成】	感	○	2. リテラチャー・サークルの一人読みを行い、役割に従って作品を読み、シートに書き込む。 3. リテラチャー・サークルの方法を知り、よりよい話し合いができるよ	(関心①) (読①②) (言①)	2 3
		想				
		を				
		立				
		体				
		リ				
		ー				
		フ				
		レ				

		ッ ト に ま と め よ う	うにする。		
オ	文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること 【自分の考えの形成】		◎ 3. リテラチャー・サークル的な意見交流を行い、ものの見方・考え方を広めたり、深めたりする。	(関①) (読③)	4 5
			4. 意見交流を通して出た意見を、立体リーフレットにまとめる。 5. 立体リーフレットを読み合い、感想を深める。	(関①) (読①②③) (関①) (読③)	6
関連する【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】		(1) イ (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。			
国語への関心・意欲・態度に関する評価		目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を養おうとしている。			

5 指導の実際

「1時間目：『星の花が降るころに』の範読を聞き感想を持とう」

教材「星の花が降るころに」の範読を聞かせ、初読後感想を書かせた。教材の内容が、同じ世代の中学生を題材にしており、友情を扱っているため生徒には身近な出来事として共感的に受け入れられていた。感想にも共感する感想が多い。しかし、この段階では、主題や表現等に深く言及した感想は少ない。その後、音読練習をさせた。

「2・3時間目：リテラチャー・サークルについて知ろう」

学習のねらいを伝えるとともに、リテラチャー・サークル式の読書方法を教える。その後、作品を読み解くための4つの観点ごとに分担を決め、「読解の手引き」を参考に役割分担に応じて教材を読み、考えを書き込ませた。基本的に、自分が書けそうな役割を分担したが、観点

によって書きやすいものと書きにくいものがあった。しかし、「読解の手引き」の文言を頼りに自分の考えを引き出し、書き込むことができた生徒が多かった。

後半では、自分の役割以外の観点から教材を読み、次時の意見交流で意見が言える準備を行わせた。

「4・5時間目：意見交流を行い、ものの見方・考え方を広めたり、深めたりしよう（リテラチャー・サークル式読書会）」

「話し合いの手引き」を使い、4人グループになって意見交流を行った。ここまでの準備を生かし、自分のものの見方や考え方を深めたり、広げたり、表現の工夫に生かしたりできるようにするために意見交流を行う。その際、リテラチャー・サークルという読書会の形式を活用した。意図的に与えた4つの観点が呼び水となって、生徒の思考を引き出すのに役立ったようだ。また、他者の意見を聞く中で、思考の深まりや広がりを実感した生徒が多くいた。

「6時間目：小グループごとに意見を立体リーフレットにまとめ、グループごとに読み合う」

前時のリテラチャー・サークル式読書会の意見交流を発表のままで終わらせずに、小グループで立体リーフレットにまとめさせた。まとめることによって自分たちが広げたり深めたりした内容を再確認したり、より深めたりした。また、互いの立体リーフレットを読み合うことで、自分たちのグループでは出なかった視点や違った解釈に触れ、学級全体での意見の交流に結びついた。

6 研究の反省と課題

<研究の成果>

- 「リテラチャー・サークル」という観点別に役割分担をして1冊の本を読み、意見交流を行う共同的な読書会を活動に取り入れることによって、次のような効果が見られた。
 - ・役割を自覚しやすくなり、責任を持って作品を読み解こうとする学習意欲が高まった。
 - ・他者の意見を聞くことで、一人では気づけなかったことにも気づけ、さらに新しい解釈に発展するなど生徒の思考の変容がその場で見られた。
 - ・読書を通して意見交流することの楽しみを感じる生徒が多くなった。
- 「学習の手引き」を提示することで、生徒がどのように考えればよいのか、どのように書けばよいのかなどが分かり、意見を出しやすくさせることができた。
- 「立体リーフレット」を作成することで、視覚的に自分たちの思考を意識することができた。

<研究の課題>

- 評価は重要だが、ねらいが多すぎると、学習の目標がぶれてしまうので、ねらいを絞って学習活動を行い、評価することが望ましい。
- リテラチャー・サークル自体は読書会の手法のため、読解指導とは重ならない部分も多い。その点を注意した上で、「読むこと」の指導に生かしていくことが必要である。